



● 草の根パートナー型

平成22年度第2回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	フィリピン
2. 事業名	ネグロスシルク産業支援事業
3. 事業の背景と必要性	砂糖産業に支えられていたネグロス島が砂糖の国際価格の下落により「飢餓の島」と化す。その状況打開のために西ネグロス州政府より要請を受けたオイスカは1995年に養蚕の普及を開始して、一定の成果を上げ、零細農民の貧困状況の改善に寄与してきている。これまで、2000年にJICA、その後外務省等の支援を受けて、小規模ながら蚕種製造から機織りまでを成し遂げる一貫体制を築き上げてきた。そうした成果を反映して山間地を中心に零細農民の養蚕への参加希望が増加傾向にある。この実情を受けて本事業への期待を寄せる州政府はオイスカに対して地場産業に向けた事業拡大への協力要請をして来ている。現状では養蚕農家の拡大、優良繭の確保、製糸部門の技術向上等が課題とされており、それら課題解決に向けては組合組織による普及体制の確立、施設整備の拡充、また撚糸機導入による絹織物の新たな製品を試作するなどが当該事業に期待されている。将来に向けてはシルク事業の拡大によりネグロス島における蚕糸業の地場産業化、強いてはネグロス島民の抱える慢性的貧困解決が期待されている。
4. プロジェクト目標	ネグロス島の零細農民がシルク産業に従事することにより生計が向上することを旨とする。
5. 対象地域	ネグロス島西ネグロス州山間地域及びバゴ周辺地域
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	ネグロス島西ネグロス州山間地域及びバゴ周辺地域の零細農民
7. 期待される成果及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生産組合による普及体制が確立する。 2. 繭の質が向上する。 3. 生糸の質が向上する。 4. 撚糸技術が導入される。 5. 機織りによる製品が開発され、販路が開拓される。 <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1) ジョイント・コミッティーを立ち上げる。 1-2) ジョイント・コミッティーの会合を定期的に開催する。 1-3) 養蚕普及の現状を調査する。 1-4) 専門家による普及員候補者に対する養蚕の技術指導を定期的に行う。 1-5) 普及員による農家への飼育技術力を高めるためのセミナーを開く。 1-6) 新規養蚕農家に対するセミナーを開催する。 1-7) 生産組合メンバーを増加させるため養蚕の普及活動を行う。 1-8) 養蚕普及のためのモデル農家の選定を行なう。 1-9) 南北地区に稚蚕飼育所を設置する。 2-1) 専門家による蚕品種の改良技術の指導を現地技術員に行なう。 2-2) 専門家及び普及員による各養蚕農家の壮蚕飼育所と蚕具の改善指導を行なう。 3-1) 専門家による製糸担当者への製糸機械を整備するための技術指導を行なう。 3-2) 専門家による製糸担当者への製糸技術の指導をおこなう。 4-1) 撚糸機械を導入する。 4-2) 専門家による撚糸担当者への技術指導を行う。 5-1) 織物技術指導員によるスタッフへの技術指導をおこなう。 5-2) 機織りによる絹織物製品を作る。 5-3) 販路を開拓する。
8. 実施期間	2011年10月～2014年9月（3年）
9. 事業費概算額	61,643千円
10. 事業の実施体制	カウンターパートの西ネグロス州政府農業局農業普及部との協力の下、当該事業の発展に向けて推進母体となるネグロスシルク生産組合スタッフ等の機能が最大限に発揮されるようプロジェクトマネージャーを中心に専門家による技術指導を徹底し、事業の推進を図っていく。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	公益財団法人 オイスカ
2. 活動内容	主にアジア太平洋を中心とした26の国と地域に関連機関を持ち、毎年約300名の青年を国内に招聘し、技術研修を実施。それらOBらが担い手となり地域のネットワークを活かした農村開発協力、環境保全活動等を実践。